

みんなが幸せになるためにスマホを使おう！

子供を信じていれば大丈夫——本当にそれで良いのでしょうか。

私たち大人が小学生・中学生だった頃、個人でスマートフォンを持つ文化はありませんでした。だからこそ、スマホに潜む危険に対する「自分の経験」がなく、想像が追いつかないまま“信じるしかない”という状況に陥りやすいのが現実です。

スマートフォンは便利である一方、周囲の人間を巻き込み、一瞬で取り返しのつかない事態を生む可能性がある機器です。

アクション1 他人を巻き込まない

うわさの拡散、軽い気持ちの投稿、グループ内での悪口。

「たった1回の操作」が、誰かを深く傷つけ、家庭や学校を巻き込み、後戻りできない問題へと発展します。

アクション2 トラブルが起きたら、ためらわず警察に相談する

人間関係を気にして通報をためらう大人は少なくありません。

しかしその間にも状況は悪化し、子どもが追い込まれてしまうこ

とがあります。

守るべきは“関係”ではなく“子どもの安全”です。

アクション3 購入する場合は親と本人の覚悟が大切

子ども用スマートフォンを購入するということは、トラブルが起きた時に“親が解決の中心に立つ覚悟を持つ”ということです。

「知らなかった」「子どもが勝手に」「すべて学校で解決してください」は通用しません。

★ 家族で改めて考えてください。

スマートフォンは本当に必要なのでしょうか？

今、子どもが親に質問する機会が減っているといわれています。

では、誰に質問しているのでしょうか。——チャット AI です。

AI は便利で正確ですが、

本来、親子で話すべきことまでデジタルに預けていませんか？

スマホが家族の役割を奪っていませんか？

今こそ、真剣に向き合ってみてはいかがでしょうか。

熊谷市立富士見中学校

